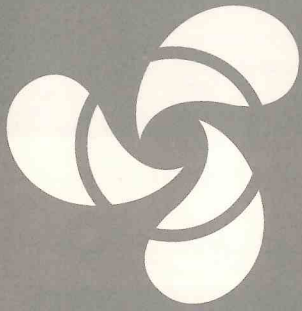


2017年11月30日

Vol.109



minmin

みみ
んん

【題字】 谷川俊太郎さん



特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター ニュースレター

目次

- P1…… 巻頭言 見えにくくなる社会課題に挑む 理事 渡辺一馬
P2~3 設立20年を迎えて ~私たちが望む社会にむけて、共に歩むために~
P4~5 各事業所からの報告・告知
P6…… 本部事務局からの報告
P7…… 事務局日誌
P8…… インフォメーション

巻頭言

見えにくくなる課題に挑む

理事 渡辺 一馬

20年前、立ち上がったばかりのせんだい・みやぎNPOセンター(せ・み)の事務所にお邪魔し、立ち上げ期の熱気に直に触れた。その5年後、大学を卒業し少し経った頃、加藤哲夫さんから「あなたは社会起業家だよ」と告げられ、市民活動の世界へ足を踏み入れ、2008年からせ・みの理事として関わっている。

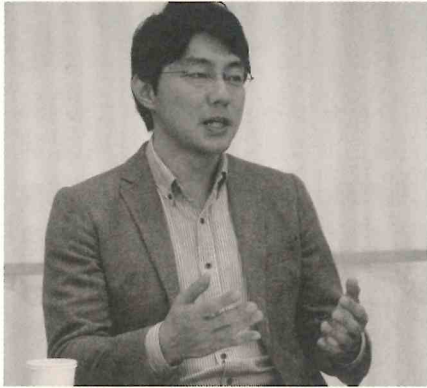
この20年で市民活動の状況は大きく変化している。せ・みの活動も、既存のボランティア活動に対して、法人化や運営支援が中心だったこれまでから、多様になり、量の増えた社会課題に対する調査や人材育成、政策提言がより必要になってきている。それはまさに、東日本大震災から3ヶ月後、哲夫さんが語った「これから課題は見えなくなる。見えないものを可視化し、対策を立てることが重要だ」を体現していくことでもある。そして、その機能をまち全体で持つ。その仕掛けをつくっていくのが、せ・みの次の役割だと私は考えている。



～私たちが望む社会にむけて、共に歩むために～

せんだい・みやぎNPOセンター（以下、当センター）は11月1日で設立20年を迎えました。20年前に比べ、社会のあり方は大きく変化しています。今回は、宮城県を中心に活躍されているお二人をお招きし、NPOを取り巻く状況の変化やこれからの市民社会のあり方をあらためて考えていきます。

▼NPO法人アスイク
代表理事 大橋雄介さん



▼NPO法人World Open Heart
理事長 阿部恭子さん



▼聞き手：
NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター
理事 渡辺一馬



●活動のはじまり

渡辺:まずはあらためて、お二人の活動内容や今の活動をはじめたきっかけをお聞かせください。

大橋:活動の出発点は、震災直後に避難所へボランティアに入ったことです。はじめは学校の勉強についていけない子どもに勉強を教えるという趣旨でしたが、仮設住宅へ移る時期に、親の精神的負担やそこから生じる子どものストレスも見えてきて、勉強を教えるだけでなく家や学校では話せないような子どもたちの声に耳を傾けていこうという活動に変わっていきました。仮設住宅を一軒一軒まわって子どもや親の声を拾い、調査をする中で、震災前から経済的に大変だった家庭も多かったことが明らかになりました。この調査がきっかけとなり、被災者支援から貧困家庭の支援へ活動がシフトしていきました。

阿部:2008年に東北大学大学院法学研究科にいた時に同級生と立ち上げたのがWorld Open Heartです。2004年に犯罪被害者等基本法が成立しました。権利が明確にされることで、被害者が自分に関わる事件の情報を得ることができるようになり、プライバシーが守られるようになりました。これは当事者たちが声をあげ、活動したからこそ実現できたことです。そんな中、私が気になったのは加害者家族でした。調べてみたら加害者家族の権利に関する活動をしているところはありませんでした。現状を調査したいと思っていた時に河北新報に私たちのことが掲載され、その記事を見た全国の加害者家族から相談が来るようになったこと

が現在の活動のはじまりです。

渡辺:お二人とも当事者あるいは当事者の近親者ではないという共通点がありますね。当事者が声をあげて活動をはじめるといふNPOは多いですが、ご自身が当事者に向き合う中で活動の必要性を感じたのですね。

●市民社会は進んでいるのか

渡辺:20年前の当センター立ち上げ時につくった設立趣旨には「私たちが望む社会とは…」とありますが「市民社会」は進んでいると思いますか？

阿部:進んでいると思います。今、日本をモデルに韓国や台湾で加害者家族支援の取り組みがはじまりました。そして、それが東アジアのモデルになろうとしています。加害者家族の人権を守っていこうという流れができつつあると感じています。

大橋:私も進んでいると思います。20年前と違うところとして、こうした活動を生業としている人が増えました。ただ、まだ限られた一部の人だけです。

渡辺:当センターの設立メンバーである大滝代表理事はどう思われますか？

大滝:20年前は阪神大震災もあり、ボランティアを社会に根付かせよう、制度化しようという流れがあり、NPOが加速度的に進んでいくのではないかという思いを持っていました。しかし、今は社会全体の活力が失われてしまっているのではないかと、課題が山のようにいろいろなところから出

できているのではないかと、課題に対応できる仕組みを私たちはつくることができないうまま20年経ってしまったのではないかと感じています。

また、NPOの仕事だけで生活できている人も少ないと思います。NPOで働く若い人たちが結婚して、家族を持つことを支えていけるような体制づくりもまだ道半ばです。

●向き合うこと、見えてくること

渡辺:なぜ社会課題を引き受けて、活動を続けているのですか？

阿部:他にやっている人がいない活動ですからね。難しい活動なのでやりにくいと思います。なぜ加害者家族を支援しなければいけないのか、を説明しなければいけませんし、場合によっては責められることもあります。それを背負えないと続けるのは大変です。活動を続けるかどうかは自分で決めているわけではなく、ニーズがなければ活動は終わっていきます。ただ、当事者が回復したり、再犯がなくなったり、ということがあるのでそれはやりがいとなっています。

大橋:活動している中でやるべきことが見えてきます。その時に、自分はやれるかな、と思ったらやってみますし、できないと思っても誰かが助けてくれました。その連続ですね。活動の中で誰かに必要とされていると感じられるから続けているのだと思います。

また、こういう仕事をやっていなかったら出会わなかった人もいるし、出会った人の考え方、生き方にふれると私自身の人生も豊かになります。



▲座談会の様子を見守る大滝代表理事(写真右)

●大切なことは

渡辺:唐突ですが、今後アスイクやWorld Open Heartがなくなるためにはどうしたらよいでしょう。

大橋:NPOはなくなることが目標という考え方もありますし、一方で活動を続けたり、拡大していくことで、問題により

多くの人が関われるようになったり、当事者の視点を大切にしたり、資源がまわってくるようになるのだと思います。

阿部:私の活動に関しては、サポーターや組織が増えていくよりも、社会で問題が共有され、差別が緩和されることが大事です。たとえば、人権について教育できるように学校の先生が理解していたり、権利を確立できるように法律の専門家が理解していたり、こうした状況がつけられれば活動はなくなってもよいと思います。

渡辺:日本国憲法が保障する人権が毀損(きそん)されている、しかし社会がそれを仕方のないものとしている。お二人の活動は、それに対して人権を守っていくための活動ですね。

●中間支援組織の役割

渡辺:こうした中、中間支援組織はどんな役割を担っていくべきでしょうか？以前は中間支援組織が行っていた団体の立ち上げサポートや人材育成は、お二人の団体のように各分野である程度経験を重ねた団体が担っていますね。

大橋:以前、保険代理店をやっているファンドレイザーの方とお話した時に、ぜひこの人のお話をいろいろな人に聞いてほしいと思ったことがあります。こういう時にせんだい・みやぎNPOセンターにつないで、みんなにお話を聞いてもらう場をつくってほしいです。せんだい・みやぎNPOセンターからも一緒にやってみましょう、といった姿勢をもう少し発信できればよいのかな、と思いました。

阿部:私がいないとダメなんだとケアしすぎてしまったり、非営利活動によって営利活動を邪魔してしまったり、こうしたNPOによって起こり得る弊害についての議論もあってよいかもしれませんね。

渡辺:同じ社会課題を解決するとしても、立場が違えばアプローチの仕方も全然違う人たちがいます。そうすると制度化しにくかったりしますよね。中立的にディスカッションする場を持ち、普遍的にしていくのも中間支援組織だからできることかもしれません。

阿部:あとは、企業だとコンプライアンスがありますが、NPOも必要だと思います。こうした支援・相談機能をもっと中間支援組織が持ってもよいと思います。中小企業の窓口と違い、ボランティアマネジメントのようにNPOならではの問題にも対応できると思います。

渡辺:ありがとうございます。われわれが今後果たしていくこととしていくつかの視点をいただきました。来年2月に行う20周年企画では、今日いただいたお話をわれわれが解釈して、こうします、こうしましたというのを出していかなければならないと思っています。

(櫛田 洋一)

各事業所からの報告・告知

仙台市市民活動サポートセンター

市民の情報発信が地域の価値をつくる

2014年度に始まり、6回目となる市民ライター講座。今回は、書くスキルを身につけたい人、市民活動者に話を聞いてみたい人、自治会の広報担当者や地域の情報発信をしたい人など14人が参加し、10月14日から11月7日までの連続講座に挑みました。

地元紙・河北新報社の協力のもと、プロの記者から取材・執筆のいろはを学び、実際に市民活動団体を取材。記事執筆の課題に向き合いました。講座でのミッションは、仙台で活動する団体を市民目線で書き、多くの人に活動を発信すること。記者の添削を受けながら課題をこなし、全員で記事を磨きました。取材は3人ずつ5団体に分かれて行いました。今回は、NPO法人ドットジェイピー、カワラバン、NPO法人地域生活支援オレンジねっと、母と自分を語る会、WorKafeのみなさんにご協力いただきました。受講生からは、「実際に新聞記者の体験も聞けて、取材や執筆にとっても興味を持った」「市民活動の生の声を聞いた」「今後、市民ライターとして活動してみたい」などの感想がありました。受講生の記事はサポートセンターのブログで公開中です。そのうち数本は11月30日(木)の河北新報夕刊に掲載されました。



▲取材場所は広瀬川の大橋のもと。カワラバンの菅原正徳さん(写真右)

イチオシ事業

◎初めての市民活動を応援します

「はじめての〇〇講座」は、想いを実現する上で身につけておきたいノウハウを基礎から学べる講座シリーズです。これまで、イベントの企画書作成編や広報編、助成金基礎編、見せ方アピール編などを実施。2014年から始まり、「実践の場ですぐに活用できる」「何もかも初めてで不安だったので、安心した」などの感想をいただいています。

次回の詳細はサポートセンターのホームページやブログ、チラシにてお知らせします。

日 時:2018年1月27日(土)

10:00~11:00 運営・人材育成編

11:10~12:10 会計編

会 場:仙台市市民活動サポートセンター 研修室5

講 師:サポートセンター スタッフ



▲熱心にメモを取る参加者

◎ぱれっと

仙台のまちをワクワクさせる人、協働によるまちづくりの事例を紹介しています。市民ライター講座受講生や学生記者のみなさんとも連携しながら、多様な視点で市民活動について市民に発信しています。バックナンバーはホームページからダウンロードできます。



(松村 翔子)

NPOの拠点を行政と協働運営

せんだい・みやぎNPOセンターでは、仙台市と多賀城市の市民活動サポートセンターの施設運営を行っています。施設ごとに実施した事業とこれから実施する事業をお知らせします。

多賀城市市民活動サポートセンター 多くの人の心に残る広報をめざして

9月29日(金)から3週にわたって、市民活動団体の情報発信を支援する講座「伝わる広報」を開催し、活動に欠かせない情報発信について3つのテーマから学びました。1回目は「文章術」。団体紹介文の作成を通して、団体のミッションや魅力、強みを整理するワークを行いました。2回目は「チラシデザイン」の基礎を学び、実際にチラシづくりにも挑戦。3回目の「SNS活用」では、役割や基本的な使い方を学び、活用法や疑問、解決策を共有しました。

サポートセンターには情報発信に関する相談が、日頃から多く寄せられます。今回の講座は、さまざまな発信方法の技術を学ぶだけでなく、より効果的に情報発信するために「誰に」「何を」「どのように」伝えるかの整理が大事と考えて企画しました。

参加者からは「今まで伝えたい内容をしっかり考えていなかったことに気づくことができた」「独学でやっていたため、勉強になった」との声がありました。スキルアップだけでなく、それぞれの活動を見つめ直す機会にもなりました。



▲参加者同士で「伝え合う」演習もしました
(小橋 萌佳)

イチオシ事業 ……………

◎たがじょうのミライのことをはなそう

多賀城市市民活動サポートセンターは、2018年に開館10周年を迎えます。そこで、「多賀城をもっと好きになってもらいたい」という思いを持つ学生2人をゲストに迎え、みんなで多賀城の未来について考えるイベント「たがじょうのミライのことをはなそう」を行います。対話を通して、これからに必要な視点やキーワード、知恵を見出ししていきます。学生と地域について話し合いたい方や、地域を盛り上げる活動に関心のある方、多賀城のことをもっと知りたい方など、お気軽にご参加ください。

日 時:2018年2月25日(日)10:00~12:30

会 場:多賀城市市民活動サポートセンター

ゲスト:木村達海さん(東北学院大学工学部3年)

鈴木亜里紗さん(IRIS/高校3年)

コーディネーター:吉田忠彦さん

(劇団ボトフ/史都多賀城万葉まつり実行委員会)

申込・問合せ:多賀城市市民活動サポートセンターまで

(阿部 明日香)

◎tag

多賀城で活躍する人や団体の紹介、多賀城で活かそうな市外の事例、多賀城の地域課題、企業による地域貢献の取り組み、様々な主体による連携事例などを発信するフリーペーパーです。バックナンバーは、ホームページからダウンロードできます。



(櫛田 洋一)

本部事務局からの報告

当センターが運営に関わる取り組みをご報告いたします。

助成金に関するセミナーとシンポジウム開催

9月1日(金)に「助成団体担当者のための実務セミナー(主催:公益財団法人助成財団センター、公益財団法人地域創造基金さなぶり、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター)」が行われました。このセミナーでは、助成する側の団体を対象に、効果的に助成事業を行うコツを学び合いました。

前半は、「効果的な助成事業を行うために」をテーマに助成財団センターの渡辺元さんから、助成金の種類や特性をお話いただきました。後半は、「助成団体を取り巻く最近の潮流」をテーマに地域創造基金さなぶりの鈴木祐司さんから、休眠預金や成果(社会的価値)の見える化についてお話いただきました。

参加者からは「なかなかスタッフの確保が難しく、フォローアップにまわれない」といった悩みも共有され、講師から「企画段階からフォローアップを盛り込んではどうか」とのアドバイスもありました。

助成団体もただお金を出すだけでなく、フォローアップや社会に対して与える変化を大切に助成事業をされているようでした。

9月2日(土)、河北新報社1階本館ホールを会場に「助成団体シンポジウムinみやぎ(主催:NPO支援財団研究会、認定特定非営利活動法人杜の伝言板ゆるる)」が開催され、助成団体関係者と一般参加者合わせて約60名が参加しました。せんだい・みやぎNPOセンターも運営に協力させていただきました。

はじめに、「シーズ=市民活動を支える制度をつくる会」の松原明さんから「助成金の基礎を知る」と題した基調講演をいただき、助成金の種類、性格と特徴や、申請にあたって心掛けたいことなどのお話がありました。続いて県内の3団体から、助成金や助成団体の活用とそこから生まれた成果についての報告がありました。後半には意見交換や情報提供の時間、名刺交換会もあり、参加者同士の交流も進みました。

今回ご参加された皆さまには、得た学びをぜひご活用いただき、今後の団体運営に活かしてほしいと思います。

(櫛田 洋一 渡辺 剛)

カタツムリな夕べ

～故加藤哲夫さんの七回忌を偲んで～

8月26日(土)、当センターの初代代表理事である加藤哲夫さんの七回忌を偲び、「カタツムリな夕べ」がレストラン萩にて開催されました。この会は、生前ご縁のあった方々からお声がけをいただいたことをきっかけに、実行委員会形式で開催いたしました。お忙しい中遠方を含めおよそ40名の方にお集まりいただき、加藤さんの写真を囲みながら歓談したり、参加者の皆様から在りし日の思い出をお話いただきました。エコロジー・ショップ



「ぐりん・ぴいす」を始めた想いや、加藤さんからの言葉を今も宿題として活動されている方のお話などを伺いました。「加藤さんらしいね」「そのエピソードは知らなかった」など、参加者の皆様にも懐かしさを感じるとともに発見があったようでした。加藤さんが遺した想いや言葉・姿勢は、市民社会の創造と発展に携わる私たちを励まし、支え続けてくれているのだと感ぜられる時間となりました。

(阿部 明日香)

事務局日誌 (2017年7月～11月)

●7月

- 2日 なとりこどもファンド公開審査会
- 12日 第28回みやぎ広域支援団体連携担当者会議
- 18日 仙台市四半期ミーティング
- 19日 多賀城市との定例会議
- 23日 杜の伝言板ゆるる通常総会
- 24日 マチノワラボVol.2(仙台サポセン事業)
- 25日 第225回理事会
- 26日 仙台市協働まちづくり助成サポートチーム会議
- 27日 認定NPO法人申請 現地調査
- 29日 マチノワ縁日(仙台サポセン事業)
- 30日 臨時理事懇談会
- 31日 仙台市協働提案制度検討会

●8月

- 5日 多賀城市市民活動サポートセンター ブース審査会
- 9日 第29回みやぎ広域支援団体連携担当者会議
- 10日 仙台市とのSSC機能強化に関する打合せ
- 16日 多賀城市との定例会議
- 17日 みやぎ生協助成金審査会
- 22日 管理職会議
- 24日 仙台市経営戦略会議
- 26日 カタツムリなタベ
- 29日 仙台市共同募金委員会理事会
- 30日 第226回理事会
- 31日 柴田町まちづくり推進センターゆる.ぶら定例会議

●9月

- 1日 助成団体担当者のための実務セミナー
- 2日 助成団体シンポジウム in みやぎ
- 5日 宮城県民間非営利活動促進委員会
- 8日 市民社会創造ファンド
「私たちが市民活動助成で目指したこと」
- 13日 第30回みやぎ広域支援団体連携担当者会議
- 15日 仙台市協働まちづくり助成サポートチーム会議
- 16日 共助社会づくりシンポジウム in みやぎ
- 19日 管理職会議

- 20日 多賀城市との定例会議
- 21日 NPO留学事前研修
- 22日 地域国際化ステップアップセミナー in TOHOKU
- 26日 第227回理事会
- 28日 CEO会議出席

●10月

- 2日 休眠預金等活用の基本方針策定に向けた
地方公聴会 (仙台会場)
- 6日 みんな共済世話人会
- 11日 第31回みやぎ広域支援団体連携担当者会議
- 17日 管理職会議
- 18日 仙台市四半期ミーティング
- 24日 第228回理事会
- 26日 マチノワラボVol.3(仙台サポセン事業)
- 27日 JCN現地会議in宮城
- 30日 多賀城市3ヶ月会議

●11月

- 1日 設立記念日
- 6日 ローカルグッド仙台運営委員会
- 8日 北海道・東北中間支援NPO情報交換会、北海道・東北ブロックでの所轄庁会議における
会計基準協議会との情報交換会
- 10日 大和町社会福祉協議会法人化50周年記念大会
- 11日 仙台市環境審議会、宮城県民間非営利活動
促進委員会拠点部会、仙台市協働提案制度検討会
- 15日 多賀城市との定例会議
- 17日 仙台市協働まちづくり助成サポートチーム会議、
たがじょうのミライのことをはなそうVol.1
(多賀城サポセン事業)
- 21日 管理職会議
- 22日 (公財)浦上食品・食文化振興財団復興支援事業
選考会
- 27日 ローカルグッド仙台運営委員会
- 28日 第229回理事会
- 30日 『ニュースレターみんなVol.109』発行

【お詫び】設立20周年記念事業式典の日程変更について

『みんなvol.108 2017.7.25』のインフォメーションにおいてご案内させていただきました「設立20周年記念 式典」は、諸般の事情により、開催時期を延期いたしました。詳細は、当センターのウェブ等にてあらためてご案内させていただきます。

日 程:2018年2月3日(土)午後

会 場:仙台市市民活動サポートセンター 地下1階 市民活動シアター

インフォメーション

ご協力ありがとうございます

(2017年4月1日～10月31日の期間で会費を納めていただいた方・ご寄付いただいた方 敬称略・五十音順)

【正会員・個人】

青木ユカリ、内海裕一、川村志厚、小林正夫、佐藤わか子、白川由利枝、白木福次郎、鈴木美紀、新川達郎、沼倉雅枝、長谷川公一、藤原範典、紅邑晶子、茂木宏友、八木健、渡邊兼光、渡辺博之

【正会員・団体】

(特活)あかねグループ、(特活)いわてNPO-NETサポート、
(特活)住民互助福祉団体ささえ愛山元、CILたすけっと、(特活)Switch、
(特活)せんだい杜の子ども劇場、(特活)多賀城市民スポーツクラブ、
(特活)でんでん宮城いきいきネットワーク、東北HIVコミュニケーションズ、
(特活)東北マンション管理組合連合会、(特活)FOR YOUにここにこの家、
(特活)ほっとあい、松山風土研究会、(特活)みちのく6次産業プラットフォーム、
(特活)宮城県断酒会、(特活)みやぎ身体障害者サポートクラブ、
(特活)みやぎ発達障害サポートネット、(特活)ミヤギユースセンター、(特活)麦の会、
(特活)杜の伝言板ゆるる

【賛助会員】

愛知絢子、朝田恵美、上野裕子、工藤聡子、(特活)塩竈市体育協会、(特活)シャロームの会、
食育NPO「おむすび」、(特活)白石うぐいす会、鈴木典男、鈴木素雄、
青少年と障害者の自立支援センター「とっておきの広場」、(特活)ソキウスせんだい、瀧澤陽子、
(特活)都市デザインワークス、中野勇也、(特活)ふくしまNPOネットワークセンター、
(特活)山形の公益を応援する会・アミル、横須賀和江、和田京子

【ご寄付】

谷川俊太郎

「センドイほろ酔い寄付キャンペーン」開催! 期間:12月1日(金)～16日(土)

キャンペーン期間中、仙台市内の協力飲食店にて「ほろ酔い寄付セット」1オーダーにつき、50円の寄付ができるチャリティプログラムです。宮城県内で社会や地域のために様々な活動に取り組んでいるNPO5団体から寄付先をひとつチョイス!

詳細はウェブでご確認ください。

URL: <https://sendaihoroyoichari.wixsite.com/horoyoi-charity> facebook: @sendaihoroyoicharity

主催・お問い合わせ:センドイほろ酔い寄付キャンペーン実行委員会

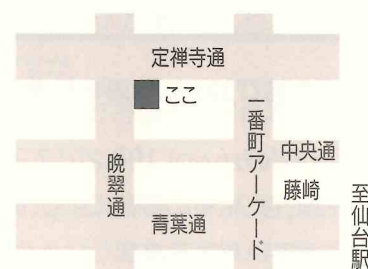
当実行委員会は、宮城県内のNPO・市民活動団体を支援する、NPO法人杜の伝言板ゆるるとNPO法人せんだい・みやぎNPOセンターで構成されています。

連絡先

特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター
〒980-0803 仙台市青葉区国分町1-8-10 大和ビル4階
TEL:022-264-1281 FAX:022-264-1209
E-mail: minmin@minmin.org HP: <http://www.minmin.org/>

発行:特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター

代表理事:大滝精一 編集部:せ・み広報チーム
発行日:2017年11月30日 デザイン:氏家朗



大和ビル4階 仙台駅から徒歩20～25分

NPO法人認証団体数 | 宮城県404団体 17年11月10日現在 | 仙台市417団体 17年11月10日現在 | 全国51,728団体 17年9月30日現在 | 認定NPO法人数全国1046団体 17年11月10日現在